

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	東九州支部	(2) 記載者氏名:	飯田 勝之	会員番号:	10912	事務局整理記入欄	東九州 - 13	
分水嶺区分	コンター780~K063黒岳~演習場の境界地点			(3) 山行日:	2004年	10月	31日 (4) 天候	曇

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

三浦敬志	8180	西 あずさ	12347					
大林正彦	8758	八重康夫	13161					
飯田勝之	10912							
高橋康利	11305							
計			6名		計			名

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	日出生の高橋牧場から黒岳を経て日出生台演習場の境界の県道まで												
アプローチ:	日出生台演習場の境界地点に車2台を置き、高橋牧場に2台で乗り入れて踏査開始												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	牧場畜舎前	豊後森	131	12	45.4	33	19	16.9	703		7:25	A-2	
分水嶺到達点	コンター780	豊後森	131	12	58.7	33	19	24.5	783	7:55		B-1	
	標高点766	豊後森	131	12	33.2	33	19	19.6	765	8:00	8:05	B-1	
	コンター770	豊後森	131	12	45.5	33	19	23.7	769	8:40		B-3	
	標高点796	豊後森	131	13	2.5	33	19	22.2	797	9:06	9:10	B-3	
	牧野道出会	豊後森	131	13	75.0	33	19	18.7	746	9:24		B-3	写真1
	黒岳山頂西の小屋	豊後森	131	13	27.1	33	19	27.3	888	10:13	10:38	B-3	
K063	黒岳山頂	豊後森	131	13	32.7	33	19	25.8	892	10:45	10:58	B-2	写真2
分水嶺離別点	演習場の境界地点												
歩行終了点	演習場の境界地点	豊後森	131	13	45.5	33	19	11.2	751	11:20		B-1	
総歩行時間(休憩時間を除く):											2時間46分		

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
K063	黒岳	2	正常	完全	カヤの中でほとんど土に埋もれており、頭部だけ露出している

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

コンター780mから標高点766mの先までは分水嶺稜線に沿って古い土塁があり、それに沿って有刺鉄線が張られている
標高点766m付近に牧場の揚水ポンプの建物(コンクリートの箱)あり
黒岳山頂の三角点横にNTTの中継アンテナあり

(9) 水および植生に関連した特記事項

コンター780mから標高点766mの先までは北側は灌木のブッシュで、南側は牧草地となっている
標高点766mの先で南側の牧草地が終わるとスギやヒノキの造林地となる
標高点769mの手前から牧野道の出会いまでは灌木の猛烈なブッシュである
黒岳の西側から東側にかけての山麓は全て牧野である

(10) その他の特記事項


(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
写真1:黒岳山麓の牧野から演習場入り口付近の分水嶺
写真2:黒岳の肩から日出生台演習場内の分水嶺方面

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

<p>高橋牧場の畜舎前のゲートから牧場内の車道に入り、すぐ先の分かれ道を右に、稜線の下の方を右にほぼ水平に走る道をたどる。</p> <p>途中からコンクリート舗装に変わる牧野道は雨量ロボットのアンテナを右に見ながら稜線に向かって登っており、やがて平らな草原の台地が出る。その向こうに少し小高いところが見える。地図で確かめたらそこが分水嶺上のコンター780mのピークである。草原を横切りそのピークにたどりつく。天候は曇りで、霧が牧場全体を覆っていて遠景は全く見えない。ここまでがアプローチである。</p> <p>コンター870mのピークは土塁が稜線に沿って作られており、土塁の手前には有刺鉄線が張られており、こちら側は牧草地、反対の北側はリョウブやリウツギなど低木の雑木林となっている。この土塁に沿って稜線歩きの分水嶺踏査開始である。霧の流れる稜線をわずかに下りながら南東向きに進むと、東向きに大きくカーブしながら下りきると、ほとんど平らな牧草地の中、かすかな登りとなる。ゆったりとうねるように続く稜線のわずかな高みでGPSを見ると地図上の766m標高点のあたりである。稜線近くにコンクリートの箱がある。みると揚水ポンプの小屋である。四等三角点がないか探すが見あたらないので、標高点を特定は出来ない。</p> <p>さらに東に稜線をたどると、稜線の南側に広がっていた牧野が途絶え、突然林に行き当たった。その境に走っている有刺鉄線を越えて林内に踏み込んでいく。稜線にそってかすかに獣の踏み跡があり、それをたどるように進む。リョウブやヒシャカキ、サンゴミズキなどの低い雑木の中にキイチゴやサルトリイバラ、サンショウなどが散在し、とげとげしいブッシュが続く。さらにスギやヒノキの植林地の中となるが、荒れた植林地は至る所に風倒木が行く手を遮る。右に左に小さく回り込みながら緩く下る稜線を進んでいく。いつの間にか霧が晴れて、樹間に遠景が見えてきて、進む前方は少しくだつた向こうには左に緩くカーブしながら稜線がせり上がって大きなピークを見せ、その左手には遠く黒岳が見えてきた。小さく下りきるとちょっと急な登りとなる。スギの植林地の中を今日最初の本格的登りで数分、鈍頂に登り着く。振り返ると見晴らしは良く、歩いてきた稜線と、その向こうに月出山岳や一尺八寸山などが見える。このピークが地図上の770mコンターの所である。</p> <p>さらに東に緩やかに下り気味に進んでいく。稜線は山の境界のようで、北側はスギやヒノキの幼木林でとても歩けない、南側は樹齢30・40年の植林で、至る所風倒木が横たわっている。そんな中を右に左に迂回しながらかすかな下りが続き、そして再びかすかな登りとなる。そして少し急な登りが始まると、北側がカエデやリョウブ、ナラ、シラキなどの天然二次林となる。そちらの方が歩きやすいので、わずかに稜線から離れて天然林の中を登っていく。15分ほど登ると東西に長い鈍頂に着いた。地図上の796m標高点だが、四等三角点もなく標高点を特定することは出来なかった。稜線状の頂上を少し進むと、直進方向の斜面は急激に落ち込んでいて、樹間に見える黒岳は深い谷を隔てて見えている。</p> <p>このあたりから進路を右(南)に取りながら急な斜面を下っていく。右手はスギの植林地、左手は天然林でその境界を下ることとなる。ブッシュをかき分けながら下っていくと、左手下の方に見えていた稜線が迫ってきて、10分余下るといきなり車道に出た。高橋牧場から来ている牧野道に出たのだ。この牧野道はちょうどここあたりから稜線の真上を走っている。道の左側は天然林の深い谷に落ちており、右側はブッシュと萱の向こうに牧草地がなだらかに下っている。牧野道を数分進むと広い牧草地の中の小高い盛り上がりに着く。北にはこれから登る黒岳が滅法高くそびえ見え、南には広い牧草地の下の方に県道が見えて、南東には黒岳から下った分水嶺が日出生台演習場の中に続いているのが見える。</p> <p>分水嶺はここから黒岳の西の肩に向かって登っている。緩やかに始まる牧草地の中の登りは、次第に急になり、やがて牧草地が終わると有刺鉄線を越えて若い赤松の林の中の急登となる。赤松の急登を10分あまりで、下からは見えなかったが、ちょっとした岩稜があり、それを登り超すと平らでミヤマキリシマの点在する茅野の小台地に着いた。わずかに平らな稜線を行くと再び緩い登りとなり、赤松の林をかき分けるとほどなく再び平らな稜線に出た。右手にはすぐ近くに黒岳山頂のアンテナが見えている。そこには大きな岩が点在し、小さなピーク状をなして、西から北のすばらしい展望が開けている。</p> <p>眼下には耶馬溪の谷々が複雑に入り込んで、溶岩の台地の険しい谷が縦横無尽に走っている様が見え、遠くには英彦山から犬ガ岳、経読岳、大平山に連なる県境稜線や、八面山、鹿嵐山、御許山などが一望できる。</p> <p>ここから東に数分行くと、三等三角点のある黒岳山頂である。わずかに東西に長い、広い平らな山頂は、一面深い萱に覆われた中に赤松やナラが点在し、一角にはNTTのアンテナが設置されている。三角点はそのアンテナの横の萱の茂みの中にほとんど土に埋もれて、わずかに地上に出ている頭部は落ち葉や萱の枯れ葉が頭を覆っていて、すぐには見つけにくい。</p> <p>山頂から南に向かって、スギの植林地の中をまっすぐ電線が走り下っていて、その下を電柱にそって管理道らしき切り開きが見える。東に向かって稜線を進むと、稜線にははっきりした踏み跡が残って、目印のテープも点々とある。黒岳にある唯一の登山道で、この道を下っていくことになる。南はスギに植林地、北はクヌギを中心とした天然林で、道は天然林にそって続いている。</p> <p>少し下るとクヌギ林はいっそう疎林となりやがて、草原となって眼下に日出生の原野や山林、そして人見岳の向こうに福万山や由布岳などすばらしい展望が開ける。</p> <p>左手のスギ林が途絶えて草原になると、分水嶺はその植生境を南に下ることとなる。急な山腹を下ると下り着いたところが県道で、ここから先は日出生台演習場の中となる。</p>	
	
<p>黒岳山麓の牧野から演習場入り口付近の分水嶺</p>	<p>黒岳の肩から日出生台演習場内の分水嶺方面</p>